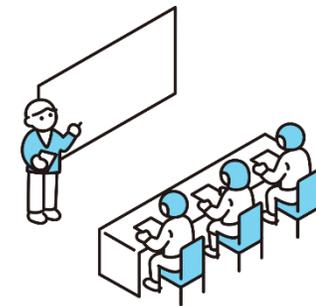


個々に応じた指導方法について 教員のチーム体制の構築について

1. 個々の教育的ニーズに応じた指導【授業づくり編】
2. 個々の教育的ニーズに応じた指導【学級づくり編】
3. 教員のチーム体制の構築について【働き方編】

1.個々の教育的ニーズに応じた指導【授業づくり編】



アセスメント

特性理解
(認知特性・学習特性等)
チーム学校

構造化

視覚化

協働化

個別化

ICTの活用

アセスメント(特性理解) チーム学校

- 教育支援ソフト(LITALICO)の活用
- 教師の主観も大切にしながら、複数の視点や専門家の視点も大切にし、客観的なアセスメントが必要
- アセスメント内容は、個別の教育支援計画、指導計画として適切に記載することが必要
- 発達段階や障害の状況も考慮しながら、子どもの意見を可能な限り取り入れることが必要

構造化(環境整備) ～視覚化・協働化等～

- 学習活動がスムーズに行えるよう環境整備を可能な限り整えることが必要
- 聴覚的な情報処理と視覚的な情報処理の優位性を理解し、対応することが必要
- 特別な配慮という視点ではなく、全ての子どもたちへの配慮というユニバーサルデザインの視点も必要
- 物理的構造化(教室・物・準備)・時間の構造化(スケジュール)・活動の構造化(何を・いつまでに・どのようなやり方で・次に何をする)

ICTの活用

- 困難さがある活動について、ICTを活用して置き換えることができないかという視点が必要
(字を書く・板書を写す・絵を描く・データの共有・共同編集・リコーダーやピアノを演奏する等)

個別化

- 特別の教育課程を編成

2.個々の教育的ニーズに応じた指導【学級づくり編】



アセスメント

居場所づくり

発達支持的
生徒指導
(ポジティブ支援)

仲間づくり

基礎的
環境整備

合理的配慮

チームティーチング
(チーム学校)

アセスメント(特性理解) 基礎的環境整備・合理的配慮

- 授業づくり編と共通の視点が必要
- 通常の学級でともに過ごすことを前提とした配慮が必要
- 障害の状況に応じた環境整備や合理的配慮は、授業づくりだけではなく、日常生活における視点も必要

居場所づくり

- 安心して過ごすためには、人間関係づくり、仲間づくりを計画的に取り組む視点が必要
- 子どもたちが「ともに過ごす」ことが当たり前環境であることが枚方のめざす「ともに学びともに育つ」教育

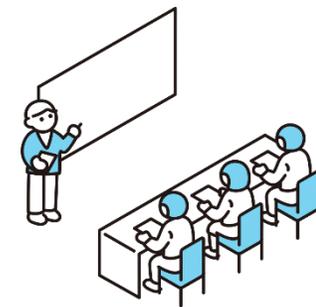
発達支持的生徒指導 (ポジティブ支援)

- 子どもたち自身が、自発的・主体的に自らを成長・発達させる過程を支える生徒指導
- 子どもたちへの挨拶、声掛け、励まし、賞賛、対話などを通じた安心できる関係づくりが大切
- ともに育つことで、「指導」でなくても子どもたち同士で模倣や学びが広がる関係づくりが大切
- ともに過ごすことで、学級で助け合いや学び合いが起きることを信じた学級づくりが大切

チームティーチング (チーム学校)

- 支援が必要な子どもを一人の教員が抱え込まないような体制づくりが必要
- 全教員で子どもたちの「ともに学び、ともに育つ」教育を支えることが大切
- 「支援が必要な子どもは支援学級担任」ではなく、通常の学級担任は合理的配慮を踏まえた授業づくりや学級づくりに取り組むことが前提となるため、校内連携体制を充実させることが必要

3. 教員のチーム体制の構築について【働き方編】



アセスメント

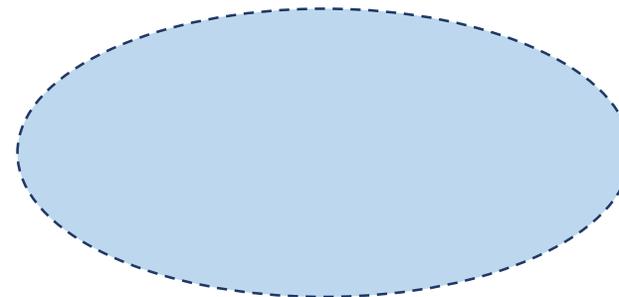
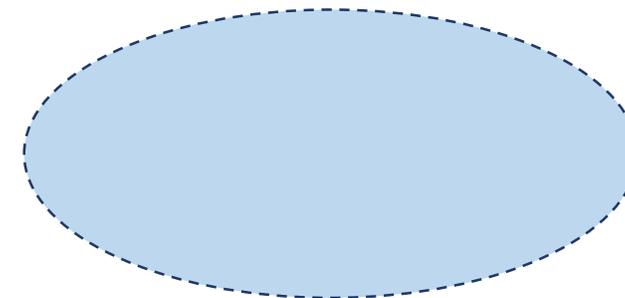
特性理解
(認知特性・学習特性等)
チーム学校

子どもの
成長

個別の教育
支援計画

個別の指導
計画

情報共有



特性理解(認知特性・学習特性等) チーム学校

○全ての教員や人的な支援員等が児童生徒の特性を含む対応について理解しておくことが情報共有の基本

子どもの成長

○頑張ったことや成長したこと、対応や評価などで気づきがあった時は、情報共有することが望ましい

○障害の状況にもよるが、多くの教員が子どもと関わり、声掛けをしてあげることが子どもの安心感につながる

○年度によって教員が変わることはやむを得ないが、日常的に多くの教員が関わることで不安感を低減できる

○子どもたち同士が成長を喜び合える環境を築くことで、居場所にもつながる

個別の教育支援計画 個別の指導計画

○支援学級担任が作成の中心となるが、通常の学級における学びの視点、合理的配慮の視点から、通常の学級担任が関わる必要がある

○支援学級や通級指導教室の学びや成長を評価する場合は通常の学級であることを意識しなければならない

情報共有

○学年会に支援学級担任が入って情報共有や授業づくりをすることで、日常的な情報共有が生まれる

○教員が情報共有できる時間を物理的に生み出す方策が必要

(例:教師の時間を生み出すために、子どもたちの下校時間変更、チーム担任制の導入等、全国で様々な取組が試行錯誤されているので、情報に注視する)